

湯原温泉はんざき祭り

ハンザキ・シンポジウム 参加報告



岡山県真庭市の湯原温泉（岡山県の三大温泉の一つ）で毎年行われる「湯原温泉はんざき祭り」にあわせて、「晴れの国野生生物研究会」、「真庭遺産研究会」の主催でハンザキ・シンポジウムが、8月8日に開催されました。NPO法人 地域再生研究センターも共催者として協力し、栃本武良理事がパネルディスカッションのコーディネーターとして、また、当センター会員がパネル展示や準備などに参加しました。

上島孝久氏（中国学園大学教授、前岡山大学教授）の基調講演、栃本武良氏（日本ハンザキ研究所所長、NPO 法人地域再生研究センター理事、前姫路市立水族館館長）、桑原一司氏（広島市安佐動物公園管理課長）、岡田純氏（鳥取大学大学院）三名の方のオオサンショウウオ研究・活動報告、そして、上塩浩子氏（湯原温泉八景女将）、古林伸美氏（湯原観光協会会長）を加えて、パネルディスカッションが活発に行われました。

シンポジウムの途中で、おそらく日本唯一と思われる「鯢（はんざき）大明神」での神事（昔、人を呑み込むオオサンショウウオを退治したが、オオサンショウウオの祟りにより滅んだ彦四郎とその一族を祭った神社が鯢大明神と言われている）と、はんざき祭りの主役となる雌雄の山車を見学しました。以下、写真で紹介します。



写真-1 会場の湯原ふれあいセンターで、講演に熱心に耳を傾ける参加者



写真-2 オオサンショウウオの歴史、岡山県での調査・研究成果を話す上島氏



写真-3 兵庫県朝来市生野町黒川の研究所とミュージアムの整備状況話す栃本氏



写真-4 パネルディスカッションでは、真庭地域の自然の重要性について真剣な討議が



写真-5 「鯢（はんざき）大明神」での神事（神主さんとお坊さんの両方が祭司）



写真-6 鯢（ハンザキ）の山車
右が雄の「太郎」左が雌の「花子」



写真-7 かなりリアルにできていますが、
一体数百万円で造ったとか